

子どもの貧困対策法成立10周年記念 院内集会 困難を抱える子ども・若者への恒久的な施策拡充を！（報告）



子どもの貧困対策法の成立から満10年を迎えた2023年6月19日、参議院議員会館講堂で子ども・若者の貧困対策に取り組む16団体が主催し、超党派の「子どもの貧困対策推進議員連盟」が共催する院内集会「困難を抱える子ども・若者への恒久的な施策拡充を！」を開催。永岡桂子・文部科学大臣、田村憲久・子どもの貧困対策推進議員連盟会長（元厚生労働大臣）はじめ与野党37人の国会議員、渡辺由美子・こども家庭庁長官を含め120人が会場出席、オンライン参加231人をあわせて351人が参加しました。

異次元の少子化対策、子ども子育て予算倍増が国会で議論され、連日報道されていますが、子ども・若者の貧困対策の拡充が抜け落ちています。「現在」を生きる子ども・若者の権利を保障し、日本に住むすべての子どもたちの最善の利益を確保するために一層の公助の強化を求め、主催16団体でまとめた共同提言を政府・各党に訴えました。

■共同提言 4つの柱

1. 困難を抱える子ども・若者への恒久的な支援を拡充し、子ども・若者の貧困対策を最優先にした子ども予算増を
2. こども基本法、こども家庭庁体制のもとで子どもの貧困対策のさらなる拡充を
3. 子どもの貧困対策法の改正により、真に子どもの貧困対策を改善する実効性の高い政策改善サイクルの実現を
4. コロナ禍・物価高騰などによる緊急支援・対策の継続を

■田村議連会長、永岡文科大臣、渡辺こども家庭庁長官のご発言(要旨)

田村憲久・子どもの貧困対策推進議員連盟会長は、「子どもの貧困対策法成立のときは、厚生労働大臣であり、国会で『対策をすすめていく』と約束をさせていただいた立場でした。その後、子どもの貧困対策をすすめていくために超党派の議員連盟を立ち上げました。5年前には、子どもの権利条約の内容も盛り込んで法改正をしました。成立から10年経ちましたが、まだまだ解決していない課題がいっぱいで、コロナでさらに課題が増えている現状です。政府は、少子化対策をやっていますが、少子化対策という言葉が個人的には好きではありません。やはり基本は、いろいろな困難を抱えている子どもたちがその困難を乗り越えられるような社会環境がないといけない。『1



丁目1番地』は、子どもの貧困対策であり、これをすすめ、いかに子どもの貧困を解消させていくかです。政府にも子どもの貧困対策推進議員連盟の先生方の声が伝わり、こども関連予算に5千億円が上積みされ、しっかりと子どもの貧困対策も入りました。まだまだ形がどうなるかが見えていないので、我々政治の立場として、超党派の先生方とともにしっかりと政府にもものを言っていきたいと思えます。『10年経って、貧困対策がすすんだよね』と言っていただけるような環境を政治の側からつくっていきたいと思っていますので、今後ともご指導よろしくお願いたします」とあいさつしました。

永岡桂子・文部科学大臣は、「私は、自民党の母子寡婦福祉対策議員連盟の会長でもあります。ひとり親にはお母さんだけでなく、お父さんもいますので、ひとり親議連として活動しています。いま発言された子ども・若者たちの声を聞くと、行政の不行き届きで、ずいぶんつらい目にあわせてしまった、これはなんとかしなくてはいけないと思っているところです。平成24年には、母子家庭の母・父子家庭の父への就業の支援に関する特別措置法ができました。令和2年には、未婚のひとり親などへの税制上の措置、控除の見直しもがんばりました。また、コロナ禍では、ひとり親世帯など低所得子育て世帯給付金を子ども1人につき5万円、何度も支給に踏み切れませんでした。さらに、文部科学大臣としては、すべての家庭の子どもたちが家庭の経済状況に関わらず、安心して育ち、学べる環境をつくることは大変重要だと思っています。子どもの貧困対策としては、幼児期から高等教育段階まで切れ目のない教育費の負担軽減をすすめています。また、貧困による教育格差の解消のために教員定員の改善措置やスクール・ソーシャルワーカー、スクール・カウンセラーの配置の充実など学校をプラットフォームにした子どもの貧困対策もがんばっています。小・中・高校生への学習支援の充実や高校中退者等に対する学習相談・学習支援の促進、地域の教育資源を活用した子どもの貧困対策など、さまざまな施策に取り組んでいます。今後もすべての子どもたちがそれぞれの夢に向かってチャレンジができる社会の実現に向けて、こども家庭庁や福祉部局のみなさまとも一緒に連携して全力で関係がよくなるように取り組みます。子どもが幸せな生活ができるように、みなさまと一緒にがんばってまいりましょう」と述べました。



渡辺由美子・こども家庭庁長官は、「子どもの貧困対策法は全会一致で成立した非常に重要な法律で、政府としてもこれを重く受け止めて、子どもの貧困対策に関する大綱に基づいて、これまでもさまざまな施策をすすめてきました。3年前には、厚生労働省で子ども家庭局長をしており、子どもの貧困などさまざまな問題がコロナの中で浮き彫りになっていきました。当時、田村大臣でしたが、低所得のふたり親世帯への給付などいくつか新しい施策も行いましたが、正直まだまだ道半ばだと思っています。これまでは一時的な対策が中心でしたが、これをどうやって恒久的な制度にしていくかが大きな課題だと認識しています。こども家庭庁ができ、子どもの貧困対策に関する大綱も含めたこども政策の大きなビジョンとして、こども大綱をしっかりとつくっていくことが、まずは一番大きな課題です。去年までこども家庭庁準備室長を務めてきましたが、これまで子ども自身の意見を含めて聞いてきており、子どもの貧困対策に関する有識者会



議からこども大綱策定に向けての意見もいただいています。これから年末の閣議決定に向けて、準備をスピードアップしていかなくてはなりません。そのプロセスの中では、与野党問わず、すべての先生方といろいろと議論をさせていただきながら、子どもの未来をどのような状態であっても守っていく、そしていまの生活を守っていくということは、立場を超えて共通の目標だと思います。政府としては、こども未来戦略方針を先週、閣議決定しました。こども政策が目指していく大きな4つの柱の一つとして、どのような状態であっても子どもが健やかに育つという安心感がある社会をつくっていくことを掲げています。すべての子どもをターゲットにしたユニバーサルな支援策が中心ではありませんが、さきほど田村先生がおっしゃった子どもの貧困対策を含めて、年末までにこども大綱の中での具体化もあわせ、さらに予算編成の中で施策の拡充も盛り込まれています。具体的な中身についてもよく相談しながらすすめていきたいと思っています。こども家庭庁として施策をすすめていく基本的な姿勢として、子ども自身や子育て当事者からの意見を聞き、きょうご参集の民間団体の方々や地方団体の方々との連携をしっかりとすすめていくことが大切だと思います。今後さらに子どもの貧困対策を含めたこども政策を強力にすすめていきたいと思っています。こども家庭庁が一丸となってすすめていくことをお約束しまして、お祝いの言葉とさせていただきます」と述べました。

■子どもの貧困対策法10年の歩みを振り返り、今後への決意を新たにするケーキ入刀

集会では、豊島子どもWAKUWAKUネットワークのこども食堂であるあすのばの若者たちも一緒に作った10周年記念のケーキを与野党議員と若者たちが入刀しました。これまでの10年の取り組みに感謝し、子ども・若者の貧困がなくなる社会を目指して対策をさらにすすめていくキックオフの集会となりました。



■院内集会の実施概要

日時 2023年6月19日(月) 16時~17時

場所 参議院議員会館講堂【オンライン同時中継】/出席者 351人(オンライン含む)

主催 公益財団法人 あすのば/アフターケア事業全国ネットワーク えんじゅ/認定特定非営利活動法人 キッズドア/特定非営利活動法人 自殺対策支援センター ライフリンク/認定特定非営利活動法人 自立生活サポートセンター・もやい/認定特定非営利活動法人 しんぐるまざあず・ふぉーらむ/シングルマザーサポート団体全国協議会/公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン/認定特定非営利活動法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ/一般社団法人 全国子どもの貧困・教育支援団体協議会/一般社団法人 全国食支援活動協力会/認定特定非営利活動法人 D×P/認定特定非営利活動法人 豊島子どもWAKUWAKUネットワーク/「なくそう!子どもの貧困」全国ネットワーク/一般社団法人 日本若者協議会/一般社団法人 ひとり親支援協会(16団体・50音順)

共催 子どもの貧困対策推進議員連盟

プログラム（司会 田代 光恵 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
国内事業部 プログラム・マネージャー）

- 主催団体代表あいさつ 小河 光治 公益財団法人 あすのば 代表理事
- 共催者あいさつ 田村 憲久 子どもの貧困対策推進議員連盟 会長
- 永岡 桂子 文部科学大臣(自民党 母子寡婦福祉対策議員連盟 会長)あいさつ
- 渡辺 由美子 こども家庭庁長官あいさつ
- 若者・国会議員による子どもの貧困対策法成立10周年記念のケーキ入刀
- 子ども・若者の声 認定特定非営利活動法人 キッズドア「学習会」に参加している高校生・大学生／公益財団法人 あすのば「子ども・若者委員」の大学生／高山 優樹 こどもまんなか静岡 代表(静岡大学2年)
- 支援者からみた子ども・若者の現状報告ーリレートークー 高橋 亜美 アフターケア事業全国ネットワーク えんじゅ 代表理事／根岸 親 特定非営利活動法人 自殺対策支援センター ライフリンク 副代表／大西 連 認定特定非営利活動法人 自立生活サポートセンター・もやい 理事長／小森 雅子 認定特定非営利活動法人 しんぐるまざあず・ふぉーらむ 理事／鳥塚 早葵 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 国内事業部／花岡 洋行 認定特定非営利活動法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ 経営企画部門統括責任者／栗林 知絵子 認定特定非営利活動法人 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク理事長／今井 紀明 認定特定非営利活動法人 D×P 理事長
- 共同提言の発表 赤石 千衣子 シングルマザーサポート団体全国協議会 代表／綿貫 公平 「なくそう!子どもの貧困」全国ネットワーク 世話人／平野 覚治 一般社団法人 全国食支援活動協力会 専務理事／渡辺 由美子 一般社団法人 全国子どもの貧困・教育支援団体協議会 副代表理事／室橋 祐貴 一般社団法人 日本若者協議会 代表理事／末富 芳 公益財団法人あすのば 理事
- 子どもの貧困対策推進議員連盟役員・各党代表の国会議員からのご発言
 - 下村 博文 衆議院議員(子どもの貧困対策推進議員連盟 顧問)
 - 長島 昭久 衆議院議員(子どもの貧困対策推進議員連盟 事務局長)
 - 古屋 範子 衆議院議員(公明党)
 - 山井 和則 衆議院議員(立憲民主党)
 - 一谷 勇一郎 衆議院議員(日本維新の会)
 - 高橋 千鶴子 衆議院議員(日本共産党)
 - 田中 健 衆議院議員(国民民主党)
 - 福島 みずほ 参議院議員(社会民主党)

【ご出席いただいた国会議員】（ご登壇者を除く）

〈自由民主党〉たばた 裕明 衆議院議員、務台 俊介 衆議院議員、森 まさこ 参議院議員、上月 良祐 参議院議員／〈公明党〉福重 隆浩 衆議院議員、金城 泰邦 衆議院議員、河野 義博 参議院議員／〈立憲民主党〉逢坂 誠二 衆議院議員、小宮山 泰子 衆議院議員、岡本 あき子 衆議院議員、早稲田 ゆき 衆議院議員、川田 龍平 参議院議員、牧山 ひろえ 参議院議員、水野 もと子 参議院議員、塩村 あやか 参議院議員、打越 さくら 参議院議員／〈日本維新の会〉梅村 みずほ 参議院議員、東徹 参議院議員、岬 麻紀 衆議院議員(オンライン)／〈日本共産党〉宮本 徹 衆議院議員、もとむら 信子 衆議院議員、田村智子 参議院議員／〈国民民主党〉伊藤 孝恵 参議院議員、上田 清司 参議院議員／〈沖縄社会大衆党〉高良 鉄美 参議院議員／〈政治家女子48党〉齊藤 健一郎 参議院議員／〈参政党〉神谷 宗幣 参議院議員(オンライン)